

平成 30 年度 第 1 回 川口市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 議事録

開催日時 : 平成 30 年 7 月 5 日(木)
午前 10 時から午前 11 時 20 分まで
開催場所 : 第二庁舎 地階 第 1・第 2 会議室

■出席委員

小川分科会長、林副分科会長、浅沼委員、庵地委員、稲田委員、鵜野洲委員、剣持委員、篠崎委員、仲島委員、守屋委員、山南委員、渡部委員

■欠席委員

中村委員、布施委員

■事務局出席者

福田子ども部長
子ども育成課：駒木課長
子育て相談課：今井係長、谷口主任
保育運営課：明石課長
保育入所課：田村次長、小川係長
青少年対策室：日高次長
地域保健センター：永峯主幹、内田センター長補佐
生涯学習課：岡田副主幹
学務課：森田次長、金子課長補佐
子ども総務課：根岸次長、竹内課長補佐、稲垣主査、仲田主任、袴田主事、堀田主事

■傍聴者：0 名

■配付資料

次第

資料 1-1 川口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（教育・保育事業）
資料 1-1 参考 保育所（園）数と利用状況及び待機児童数
資料 1-2 川口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（地域子育て支援事業）
資料 2 第 2 期川口市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の概要について
参考資料 1 川口市子ども・子育て支援事業計画（平成 29 年 9 月見直し後）
参考資料 2 子ども・子育て支援新制度ハンドブック（施設・事業者向け）

1 開会

2 子ども部長あいさつ

3 児童福祉専門分科会長の互選

小川委員が専門分科会長に選出された。

4 専門分科会長あいさつ

5 児童福祉専門分科会副会長の指名

林委員が副専門分科会長に指名された。

6 副専門分科会長あいさつ

7 施設認可部会委員の指名

施設認可部会委員の人選と指名は小川会長に一任されることになった。

8 議事

議題（1） 川口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

○事務局

資料 1-1、資料 1-1 参考について、説明。

○委員

今後、公立保育所をそのまま維持していきながら、公設民営保育所を増やしていくという考え方か。公立保育所には一定のニーズがあると思うが、公立保育所を減らして民間に移行していく市も増えている。川口市の今後の方針はどうか。

○事務局

現時点では、公設公営保育所を平成 32 年 4 月に 1 ヶ所、平成 34 年に 1 ヶ所、公設民営に移行する予定であるが、公立保育所を減らす方針はない。

○委員

では、当面、公立保育所はこのまま維持していくということか。

○事務局

現時点ではその通りである。

○委員

待機児童は全国的な問題であり、川口市は県内でも人数が多い方に入ると思う。施設整備は計画通りに進めていると思うが、今後、少子化が進む中で、いつまで施設を増やしていくかという観点で、何か計画はあるか。

待機児童問題と合わせて、保育士不足も社会的な問題だと思う。川口市から一定の条件の下で補助を出してもらいたいと思っているが、施設が増えることで、保育士不足が進み、保育士を集める

のが難しくなっているという話もある。そのあたりのバランスをどのように考えているか。

○事務局

1 点目については、市としても非常に大きな課題として内部で検討している。この後にもご説明するが、現在、第 2 期川口市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた準備を進めているところである。市の保育ニーズや量に関する調査のほか、施設整備以外の方策も視野に、計画の策定を行いたいと考えている。

○事務局

2 点目の保育士確保のための市の取り組みについて、都市部で保育士の確保が難しくなっている状況に加え、国の地域区分が東京 23 区やさいたま市と比べて低く設定されているため、保育士が流出してしまうということがあった。こうした状況を解消すべく、事業主にもご負担をいただきながら、1 人当たりの給与を最大で月額 28,000 円まで増額することが出来るようにすべく、今年度に補助制度を創設した。根本的な解決に向けては、現在、市長自ら、国に対して地域区分の是正を求めている。加えて、県に対して、財政支援に関する要望を行っている。

○委員

川口市の地域区分は何%か。また、給与の違いによって、どれくらいの保育士が東京都やさいたま市に流れているかに関するデータがあれば教えて欲しい。これは川口市だけではなく県全体の問題だと思うが、補助制度は東京に比べると低い。地域区分の是正については改善が必要だと思う。

○事務局

川口市の地域区分は 6%である。さいたま市は 15%、東京 23 区は 20%である。差が出ているので、引き続き、国に対して要望をしていく。保育士流出に関する実態については、いくつかの保育事業者にもヒアリングをしているが、実際のところ、辞める理由として「給与が別の保育所のほうが高いから」と言う人は少ないので、具体的な数値については把握していない。

○委員

学生を見ていると、給与よりも働きやすさを重視しているように見える。保育士の 1 番の離職理由として職場での人間関係が挙げられる。保育士全員が子どもの方を向いて仕事を出来れば良いが、人間関係が悪化してしまうと、横を見なければならなくなり、それがものすごいストレスになり、離職につながる。こうした問題は、保育の質の向上と合わせて考える必要がある。

合わせて、川口市で保育士として働く喜びや、やりがいといったものを感じられるようにしていく必要がある。処遇改善というよりは、「保育士の高い専門性に見合った給与に引き上げる」と言って欲しいと思う。川口市の保育士はこれだけやりがいを持って働いており、だからこれだけ給与が上がったと言えるような状況にしていけるのが良いと思う。

また、保育所に入った子どもがいずれ小学校に上がるということを考えると、放課後の過ごし方も並行して考えていく必要がある。特に低学年については手厚く見ていく必要があると思うが、学童では狭いスペースで生活しているという話も聞く。このあたりについてはどのように考えるか。

○事務局

ご指摘の通り、小学校に在籍する子ども、保護者からのニーズも多い。川口市では、公立小学校内で児童を預かる放課後児童クラブが中心であるが、その需要が増えており、受け皿の拡大が必要になっている。現在、内部でも部局横断的に効果的なあり方や方策を検討している。

○委員

資料 1-1 に「特別な支援が必要な子どもが特定教育・保育施設及び特定地域型保育施設等を円滑に利用できるように十分な配慮を行うよう努めていく」と記載されているが、これは病児・病後児に対する保育を言っているのか、それとも、障害を持っている子どもが保育所に通えるようにするということか。

○事務局

障害児保育に関するものである。

○委員

待機児童問題や保育士給与の課題は非常に重要だが、他にも重要な課題がある。

○事務局

待機児童対策が注目されがちだが、今後の施設整備の進め方や少子化など、検討すべき課題は多い。その一方、川口市は「選ばれるまちづくり」を進めて、多くの方に住んでいただくまちづくりと考えている。保育に限らず、多様な子育て支援のニーズに対して、市として色々な施策を講じていきたいと考えているので、委員の皆様からもぜひご意見をいただきたい。

○事務局

資料 1-2 を説明

○委員

P11 の利用者支援事業について、28 年度から 29 年度にかけて決算額が大きく上がったのはなぜか。

また、ファミリー・サポート・センターについて、ほとんど変化がなく、決算額も減っている。以前にも発言したが、ファミリー・サポート・センターの打ち合わせが平日に限られているため、利用する場合は打ち合わせのために会社を休まなければならない状況である。この点について改善が必要だと思うが、何か対応はあったのか。

○事務局

決算額が大きく上がったのは、戸塚児童センターで利用者支援事業を開始したためである。

ファミリー・サポート・センターの相談時間については、現時点では改善されていないが、今後、対応できるか検討していく。

○委員

施設を増やすのも大事だが、ファミリー・サポート・センターのような緩やかな支援をもう少し活用できれば、必ずしも年間を通して保育所を利用しなくても良いと思う人もいると思う。ぜひ、こうした

支援を充実させて欲しいと思う。

○委員

昨今、想定外の出来事が多く起こるので、それを見越して予算や計画に幅を持たせる必要があると思う。大きな施策も大事だが、市民の力も借りつつ、きめ細かく対応していくことが必要だと思う。

○委員

P14の「現在までの取り組み状況及び今後の方向性等」について、虐待予防を早期に把握することがメインの事業目的というのであれば、それを分かりやすい表現で記載した方が良いのではないかな。

○委員

精神的な問題や家庭環境の影響を受けて虐待を行うようになってしまうことも多いが、このようなことまでハイリスクという言葉に含めるべきなのか、議論の余地があると思う。

○事務局

保健師が妊娠届を確認する理由は、身体だけではなく、虐待予防、精神面、育児環境なども含めた全体の状態を把握し、必要に応じて保健師が妊婦に対して継続的な支援をできるようにするためであることをご理解いただきたい。表現については検討したい。

議題（2） 第2期川口市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査の概要について

○事務局

資料2を説明

○委員

今後、アンケート調査の結果を踏まえて各部局で話し合うことになると思うが、アンケート調査と合わせて、働く女性の本音を吸い上げる仕組みについても検討していただきたい。

○委員

幼稚園協会でも、お母さん方に集まっていただき意見を出して頂いている。こうして出た意見についてもぜひ活用していただきたい。

○委員

第2期川口市子ども・子育て支援事業計画は、いつまでに策定するのか。

○事務局

平成32年度から第2期計画が始まるので、31年度中には策定を完了させる。その前段として、今回ニーズ調査を行う。

議題（3） その他

○委員

先ほど事務局から、施設整備にとどまらず、委員から多様な意見を伺いたいという話があったが、川口市の保育園協会でも、今後の見通しやアイデアについて議論を行っている。こうした大きな場で具体案を検討するのは難しいと思うので、ぜひ、意見交換の機会をいただきたい。

○事務局

現場の声が一番重要だと考えている。ぜひ、事業者にもご意見を伺いたいと思っている。

○委員

数字には表れない声が吸い上げられると良いと思う。

○委員

次の分科会はいつか。

○事務局

まだ具体的には決めていないが、ニーズ調査の形が見えてきた時点で一旦ご報告し、意見を伺いたいと考えている。

○分科会長

今回の議事録署名人は、名簿順で、浅沼委員と庵地委員にお願いしたい。

○両委員

了承。

○分科会長

それでは、本日の議題は全て終了とする。

○事務局

以上をもって、平成 30 年度第 1 回川口市社会福祉審議会児童福祉専門分科会を閉会する。

閉会

以上

平成 30 年 9 月 5 日

川口市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

委員 _____（浅沼委員署名）

委員 _____（庵地委員署名）